

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 29

2011年7月発行

暑中お見舞い申し上げます

みなさま、くれぐれもお身体に気をつけて

お過ごしください。



2010年度事業報告

2010年度は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成を受け、「障害児の自立に向けての社会生活体験事業」を実施しました。本事業は、A. 社会生活体験事業、B. 社会参加の促進、C. 個人将来計画検討会議の開催から構成されています。

A. 社会生活体験事業では、障害をもつ中高生の社会参加をすすめ自立にむけた支援を目的とする「社会生活体験プログラム」を実施しました。社会生活体験のうち、〈しごと〉〈おしゃれ〉〈クッキング〉を取り上げ、地域活動に参加する機会や、さまざまな人とともに活動に取り組む機会をつくることによって、将来の暮らしを見すえながら、体験の幅を広げられるように支援を行いました。併せて、保護者に対して、子どもの将来を考える機会を提供し、自立していく子どもを思い描きながら、元気に子育てをしていくことができるように支援を行ないました。この実践を「自立生活プログラム・子ども版」としてまとめ、報告冊子を発行しました。

B. 社会参加の促進では、子どもがそれぞれのペースで、音楽を通してコミュニケーションをはかり自己表現をする「音楽広場」を月1回開催しました。7月には、グループ活動の「体験広場」を開催し、障害をもつ小学生達が音楽を通して楽しい時間を過ごしました。保護者交流会も同時開催しました。

C. 個人将来計画検討会議では、障害当事者・ヘルパーコーディネーター・医療関係者・教師・社会福祉士等が集り、2007年度から行ってきた「子どもからはじめる個人将来計画」の課題検討会議を継続し、計画作成ワークショップを開催して、個別支援を行いました。(以上は、収支計算書の「児童の余暇活動支援」事業となります)

その他、障害児者とその家族に対する相談支援、セルフヘルプグループの運営支援、生涯学習講座の企画運営支援、まちづくりの推進企画、子育て支援などの事業に取り組みました。まちづくりは、「あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会」に参加し、「あさひあったかきち」運営委員会で活動しました。子育て支援では、区内の子育て支援関連の定例会に参加して情報や意見交換を行い、イベントや講座の開催に協力しました。

2017年度事業計画

今年度は、昨年度に続き、障害児の社会参加や自立に向けての支援を中心に活動します。障害児者とその家族に対する相談支援、セルフヘルプグループの運営支援、生涯学習講座の企画運営、まちづくりの推進企画、子育て支援などの事業も引き続き行います。

大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」の助成を受け、次のような活動に取り組んでいます。

〈プロジェクト名〉「未来に向かって チャレンジ！ ～ 障害児の自立に向けた支援 ～」

障害をもつ中高生を対象に、自立生活の基盤となる〈すまい〉〈しごと〉〈クッキング〉をテーマにチャレンジ体験を行います。地域の中に体験の幅を広げるような活動の機会を創り、一人ひとりの体験活動およびグループによる活動を支援します。〈すまい〉については、グループホームや自立生活の見学や研修会を開催し、親子と一緒に学び、全員で感想を共有します。〈しごと〉〈クッキング〉については、ワークシートを用いて目標や活動報告を記録することによって個別活動を充実させると同時に、グループ活動を通して仲間づくりを行います。併せて、保護者を対象に、子どもの自立に向けた意識をもてるような支援を行います。

この事業は、運営委員会を設置し、連携団体や障害児の保護者、ボランティアとともに企画運営を行います。地域の団体や住民と連携することによって、地域の理解を促しながら、障害児を支えるネットワークを構築していくことができればと思います。

(1) チャレンジ体験Ⅰ・すまい

[協力団体] 自立生活センター・あるる、自立生活センター・おおさかひがし、出発のなかまの会、地域ゆめの会

- ・ 見学会：グループホームを訪問し、暮らしを知る。
- ・ 研修&交流会：見学会の感想を共有し、障害者や支援者から、生活のようすを聴く。質疑応答を含め、参加者それぞれが思いを述べ合い、交流する。
- ・ 個人宅の訪問・宿泊体験：希望に応じて、自立生活をされている個人宅の訪問、また、宿泊体験に取り組む。

(2) チャレンジ体験Ⅱ・しごと

[協力団体] 北部地域障害者就業・生活支援センター、旭区自立支援協議会

- ・ しごと体験：子どもが「職場」を体験することと地域の理解をすすめることを目的に、公共機関・企業・店舗等において、しごと体験に取り組む。
- ・ 報告&交流会：個別に行ってきたしごと体験の報告を行い、感想を共有しながら、子ども、ボランティア、保護者、協力者らと振り返る。地域の中学校や特別支援学校にも広報して、活動のようすを伝える。

(3) チャレンジ体験Ⅲ・クッキング

[協力団体] 大阪工業大学ボランティア教育研究会

- ・ お弁当に何いれる？：グループワークによるメニューの選定と買い物リストの作成。
- ・ お買い物&クッキング：お弁当作り。買い物、調理、食事、片づけ。

(4) 保護者研修会

- ・ 「義務教育修了後の進路について考えよう」をテーマに、中学卒業後のさまざまな進路について、情報を提供し、体験談を伝えたりすることを通して交流をはかり、地域でのつながりを創る。 (P. 4 参加者募集 参照)

(5) チャレンジ体験事業の報告会

- ・ チャレンジ体験を行った子どもとその家族、協力者、支援者、運営委員などを中心に、今年度の活動を振り返り、感想や今後の課題を共有する。

みなさまのご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます！



「未来に向かって チャレンジ！」事業

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

第1回 運営委員会の開催

日 時：2011年6月9日（木） 13:00～15:00

会 場：あさひあったかセンター（旭区在宅サービスセンター） 多目的室

参加者：保護者5名、自立生活センタースタッフ3名、

居宅介護支援センタースタッフ1名、

旭区社会福祉協議会職員1名、ほうぶスタッフ2名

[議題]

1. 「未来に向かって チャレンジ！～障害児の自立に向けた支援～」事業についての説明
2. 事業内容の企画についての意見交換
3. 今後のスケジュールと活動内容についての検討
(以下、今後の活動予定参照)



今後の活動予定

<チャレンジ体験Ⅰ・すまい>

○グループホーム見学会

日 時：7月22日（金）16:00～18:30

会 場：出発のなかまの会のグループホーム（生野区・4軒）

○研修&交流会

日 時：7月27日（水）13:30～16:00

会 場：城北市民学習センター 研修室2

<チャレンジ体験Ⅱ・しごと> みなさまへお願いです！！

現在、職場体験を受けいれてくださる企業・店舗・施設などを探しています。日時、内容など、柔軟に検討しながら活動したいと思います。ご協力ご支援をいただける企業・店舗・施設などの方々、ぜひご連絡ください！子どもと一緒に「しごと体験」の活動をしてくださるサポーターさんも募集しています！

<チャレンジ体験Ⅲ・クッキング>

○ボランティア打ち合わせ

日 時：8月20日（土） 15:00～17:00

会 場：旭区民センター 3階 集会室3

○お弁当に何いれる？

日 時：8月27日（土） 11:00～15:00

会 場：あさひあったかセンター(旭区在宅サービスセンター) 3階 多目的室

○買い物&クッキング

日 時：9月3日（土） 11:00～15:00

会 場：旭区民センター 1階 調理室

<保護者研修会> (P. 4 参加者募集参照)

日 時：9月3日（土） 11:00～15:00

会 場：旭区民センター 3階 集会室3 (13時～ 集会室1に移動)

旭区 子育て支援情報

子育て支援の地域住民のパワーが大きくなってきました。撒いた種が育ってきたことを感じています。みなさんも子育て支援の輪に加わってください！

第3回 子育てわいわい広場 in Asahi

毎年、大賑わいの「子育てわいわい広場」が、今年もまた開催されます。

日 時：2011年7月7日(木) 10:00～12:00

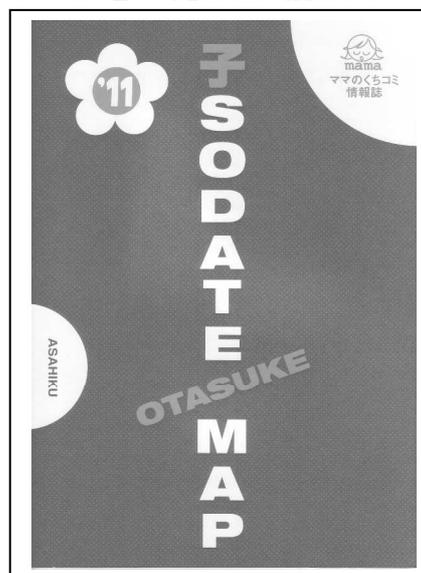
会 場：旭区民センター 大ホール

子育て中のみなさま、お子さんと一緒に楽しい時間を！

「あさひ子育ておたすけマップ」第3版が 発行されました！

子育て中のママの口コミ情報が満載の子育ておたすけマップが改定されました。2005年に第1版を当NPOにて発行し、2006年に改定版を出しましたが、その後、改定版を発行できずにいました。今度は、「あさひ子育てネットワークきしゃぽっぽ」のお母さんたちが中心になり、マップの情報の確認修正をして、改定版を発行してくださいました。

マップは、旭区役所の1階総合窓口にありますので、ぜひ、ご活用ください。このマップが、子育て中の方々にとって地域への扉となることを願っています。



呼びとめられてしまったこと、問われてしまったこと

地域生活サポートネットほうふ／四天王寺大学 鳥海 直美

ホームヘルプの現場に居場所を失って、大学院に避難しようとしていたとき、「障害当事者やその家族こそが、障害児者の支援に関する研究に取り組むべきではないでしょうか」と誘った相手が、その後に設立されることになる〈ほうふ〉の代表者でした。誘った相手を間違っただけで、逆に〈ほうふ〉に巻き込まれることとなり、近年は「子どもからはじめる個人将来計画」や「自立生活プログラム・子ども版」の活動に従事しています。それらの活動の詳細については、〈ほうふ〉が発行する報告書に記述していますので、本稿では、障害をもつ子どもやその家族にかかわるに至る個人的な経緯などを綴ることとします。

「何ものか」と呼びとめられたのは、大阪から奈良に向かう昼の電車のなかでした。午後の講義で用いるテキストをめくる音が響き渡るほど静かな車内でした。隣席の女性から「何ものか」と問われたのはそのときです。専門学校で障害者福祉論の講義を担当することになり、そこに向かう途中であることを告げました。「学生に呼びかけてほしいことがある」と、連絡先を交換したところで次の駅に着き、ホームに飛び降りた女性と窓越しに挨拶をして別れました。

後日、「ぼくといっしょに遊びませんか」と書かれた手作りのポスターが届きました。青色の車いすの上で身体をくねらせて、青色のヘッドギアにくるまれた顔をしかめながら笑っている、そんな男子の写りが貼られていました。中学生になった息子と十分に遊んでやれないという母親の心情と、息子のお兄さんになってくれるような学生ボランティアを探しているという主旨の手紙が添えられていました。そのポスターを貼った掲示板には、別のボランティア募集のチラシが容赦なく重ねて貼られていきます。その夥しい数のチラシをかきわければ、いまだに中学生のままの男子が顔をしかめながら笑っているにちがいません。

「何ものであろうとするのか」と呼びとめられたのは、ピンクの電動車いすに乗った少女との出会いでした。既存の言語規範の支配から逃れている彼女は、言語能力をもつ者をその特権的階級から引きずり下ろそうと挑みかかってきます。電動車いすで身体を移動させながら、私の視線を彼女の身体へと誘い込み、身体動作と視線動作を組み合わせて意思を表現します。独自の身体言語の解釈が彼女によって了承されるまで、何らかの応答を繰り返すことが要請されます。今までその場しのぎで取り繕ってきたものの、「何ものであろうとするのか」という肝心の問いかけには、いまだに答えられないでいる居心地の悪さを抱えています。

障害をもつ子どもやその家族から呼びとめられ、もう一度歩き出した先に〈ほうふ〉に辿り着きました。「こうありたい」という障害をもつ子どもの思いが、他者との協働によって表現され、他者とのあいだに存在し続ける力を育む場。障害をもつ子どもと地域社会とのあいだに生じる葛藤を顕在化させながら、地域社会のあいだに存在し続ける力を培う場。このような〈ほうふ〉は、筆者にとって、「できる／できない」という尺度に依りかかることをしない存在の仕方や、ありのままに存在する仕方を探る場であると同時に、「何ものであろうとするのか」が常に問われ続ける場です。

「おおさかひがし通信 No.46」(2011.5/25 発行)に掲載

いきなり猛暑がやってきました。「しごと体験」の願いで、自転車で企業まわり。陽ざしが厳しく暑くてクラクラです。節電が叫ばれる中、扇風機がよく売れているとか。一人ひとりの心がけで、少しでも状況が良くなればと思います。

でも、みなさん、くれぐれも熱中症に気をつけてください。

